

平成 29 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月10日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①学校として育成する資質・能力を明確化し、生徒のニーズを踏まえ、平成 30 年度より新たな教育課程で教育活動を行うとともに、生徒が自らの課題を発見し解決する力を育む授業実践を進め、課題発見・設定・解決する能力を育成する。</p> <p>②学校行事や生徒会活動を通じて、集団としての成長を促す取組の構築・充実を図るとともに、生徒のキャリア諸能力の形成および豊かな人間力の形成を図る。</p>	<p>①学校として育成する資質・能力を基盤に、生徒が自らの課題を発見し解決する力を育む授業実践を進めるとともに、授業時間確保を考慮し、平成 30 年度からの教育課程導入に伴う諸課題の解決を図る。</p> <p>②生徒が主体的に学校行事・生徒会活動に参画することを通じ、集団としての成長を図るとともに、内容の充実・精選を図る。</p>	<p>①教育課程研究開発校(新たな学習評価に係る研究)の平成 28 年度の研究成果を基に、総合的な学習の時間を含めた授業改善を進める。</p> <p>①平成 30 年度実施の教育課程に基づき、具体的な科目の構成や校時表、授業時数確保した行事予定を作成する。</p> <p>③学校行事・生徒会活動において、さらに生徒の主体的な取組となるように内容の充実・精選を図る。</p>	<p>①生徒による授業評価における「生徒主体の授業の工夫」の評価について、すべての教科で肯定的な回答の割合が増え、80%以上となったか。</p> <p>①平成 30 年度教育課程編成、校時表、授業時数を確保した行事予定が完了したか。</p> <p>②生徒主体の学校行事の充実と精選が図れたか。</p>	<p>①平成 28 年度の研究成果を基に、ルーブリックを活用した授業改善を進めることができた。</p> <p>②平成 30 年度実施の教育課程に基づき、科目構成や校時表、授業時数確保した行事予定を作成することができた。</p> <p>③学校行事・生徒会活動において、さらに生徒の主体的な取組となるように内容の充実と精選を図ることができた。</p>	<p>①各教科は確実に授業改善が進められているが総合的な学習の時間の授業改善にさらに取り組む必要がある。</p> <p>②新たな校時表の運用により放課後の時間が短くなり、部活動に影響が出ないか検証する必要がある。</p> <p>③放課後の時間が短くなることにより、学校行事・生徒会活動の準備等を、より計画的に取り組む必要がある。</p>	<p>①生徒による授業評価の結果を見ると、必ずしも授業改善が進んでいないと読み取れない。ルーブリックの有効性を生徒が実感できるようにするとよい。</p> <p>②国立教育政策研究所による教育課程研究校の指定が生徒にとってどのようなメリットがあるのか、生徒や保護者にも実感が持てるようにする工夫があるとよい。</p> <p>③部活動等、放課後が短くなることの課題について、具体的な対策を講じる必要がある。</p>	<p>①ルーブリックを利用した学習評価の方法が定着し、主体的・対話的な学習活動が充実してきている。その一方で、主体的・対話的な学習活動が深い学びにつながり、生徒の資質・能力が向上しているのか、エビデンスを示す必要がある。</p> <p>②県の指定校事業の取組成果を学校として実感しているものの、その成果を数値的に示すことはできていない。研究成果を引き続き普及させる必要がある。</p> <p>③授業時間の確保に向けた取組は進んだが、学校行事や生徒会活動の時間の確保が新たな課題である。</p>	<p>①定期テスト、ルーブリック、教材の共通化をより一層進めることにより、組織的な授業改善と教員の働き方改革を推進する。</p> <p>②県と国立教育政策研究所の指定事業を通して、授業改善の PDCA サイクルを回し、その成果をホームページ等で普及させる。</p> <p>③部活動や学校行事を計画的に効率よく取り組み、放課後が短くなくても充実できるようにする。</p>
2 (幼児・児童) 生徒 指導・支援	<p>①生徒指導・生徒支援を一体的に捉え、丁寧な生徒理解のもとに、より質の高い基本的な生活習慣の確立や学習環境の整備、マナーや規範意識の向上のために、教職員の共通理解を持った指導・支援体制を確立する。</p> <p>②生徒の自主的な活動の場としての部活動に対する支援の充実を図るとともに、個別生徒の課題解決に向けた支援体制の一層の充実を図る。</p>	<p>①キャリア諸能力及び人間力の形成につながる今年度の生活指導基本方針を定め、丁寧な生徒理解のもと、全教職員の共通理解を深め、具体的な対応を組織的に進める。</p> <p>②部活動の活性化に向けた支援を充実させるとともに、個別生徒の支援体制の充実をさらに進める。</p>	<p>①生徒支援の視点で生徒理解を進める。</p> <p>②部活動の活性化に向け、校舎改修に伴う活動場所の確保など、支援の充実および個々の生徒の課題解決のための支援体制の充実を進める。</p>	<p>①生徒支援の視点で生徒理解ができたか。</p> <p>②部活動の活性化および個々の生徒の課題解決についての成果が見て取れるか。</p> <p>②十分な活動場所を確保できたか。</p>	<p>①教育相談コーディネーターを中心に生徒支援体制の充実を図り、生徒支援の視点で生徒理解を進めることができた。</p> <p>②校内の活動場所の調整や、他校との連携により、校舎改修に伴う活動場所の制約の課題をできる限り小さくすることができた。</p>	<p>①各学年に教育相談コーディネーターを配置できるように、養成研修の受講者を確保する必要がある。</p> <p>②後期の耐震老朽化対策工事期間に向けて、さらに地域の施設の活用促進や他校との連携を充実させる必要がある。</p>	<p>①教育相談コーディネーターを各学年配置できるように、県に働きかけ、養成研修に参加できるようにするとよい。</p> <p>②耐震老朽化対策工事が学校行事や部活動に影響が出ないように、引き続き工夫をする必要がある。</p>	<p>①生徒の些細な変化を、アンケートや面談等をおして組織的に発見することができた。引き続き、個別の支援が必要な生徒を早期に把握し、組織的に取り組む必要がある。</p> <p>②耐震老朽化対策工事が学校行事や部活動に影響が出ないよう、引き続き工夫をする必要がある。</p> <p>③耐震老朽化対策工事が学校行事や部活動に影響が出ないよう、引き続き工夫をする必要がある。</p>	<p>①教育相談コーディネーターの配置と生徒支援チーム、支援のためのアンケート等や校内委員会の充実を図り、生徒の小さな変化についても速やかに情報共有し、支援が必要な生徒に対してきめ細かく対応する。</p> <p>②55分授業の実施や耐震老朽化対策工事の影響ができるだけ小さくなるように、校内外との連絡調整を図り、各部活動が各種コンテスト・大会への参加を促進する。</p>

3	<p style="text-align: center;"><b>進路 指導・支援</b></p>	<p>①生徒のキャリア諸能力の形成および豊かな人間力の形成を図り、社会に貢献する人材を育成する。</p> <p>②個々の生徒が将来の生き方・働き方、将来の社会参画の在り方について考え、その具現化のための「個々の生徒の目標とする進路実現」を図る。</p>	<p>①卒業後の自分の姿や将来の自己の在り方やビジョンを持たせる取組の充実を進めるとともに、「個々の生徒の目標とする進路実現」を測る指標の確立を図る。</p> <p>②主体的に学ぶ意欲を喚起し、授業・課題研究・定期テスト等に対する意義や目標を明確に持たせる取組をさらに進める。</p>	<p>①卒業生アンケート等の改善を図り、「個々の生徒の目標とする進路実現」を測る指標づくりを進める。</p> <p>①総合的な学習の時間の検証結果をもとに課題を整理する。</p> <p>②一定のスパンで（短期・中期な）目標を持って学習に取り組むことができるよう、教科・学年等多角的に働きかけを進める。</p>	<p>①個々の生徒の目標とする進路実現」を測る指標を具体化し、生徒の達成感・成就感を把握することができたか。</p> <p>①総合的な学習の時間の検証結果を整理し、平成30年度教育課程への反映が見通せたか。</p> <p>②主体的に学ぶ意欲を喚起し、自宅学習時間の改善が見られたか。</p>	<p>①卒業生を対象にしたアンケートにより「個々の生徒の目標とする進路実現」を把握した。</p> <p>①実施結果を踏まえ、平成30年度の総合的な学習の時間の年間指導計画の改善を図った。</p> <p>②定期テストや業者による学力テストの振り返りにより、目標を持って学習に取り組ませた。</p>	<p>①目標とする進路実現の状況を把握するためには、大学等の進学実績だけでなく、同窓会との連携を図り、その後のキャリアを把握する必要がある。</p> <p>①平成30年3月に告示される次期学習指導要領の総合的な探究の学習の学習内容を踏まえて年間指導計画を改善する必要がある。</p> <p>②平成30年度の1学年から導入する学習支援サービスを活用して、生徒の資質・能力向上に向けたPDCAサイクルを回す必要がある。</p>	<p>①多様な進路、多様な受験方法に対応する取組はよい。</p> <p>②平成30年度入学生の大学受験が大きく変わることにより、積極的に対応しようとすることはよい。コンクールへの参加や資格検定試験への取組は新しい入試につながる。民間業者が提供する学習支援サービスを学力向上や進路実現に生かす取組に期待する。</p>	<p>①多様な進路実現に対応したキャリア教育を実践することができた。今後は73期生に対しては、導入する学習支援サービスの利用を充実させる必要がある。</p> <p>②高大接続改革の方向性を踏まえ、総合的な学習の時間の年間指導計画を見直すことができた。今後は探究活動を充実させ、その学習履歴を蓄積する必要がある。</p> <p>②各種大会やコンクール、資格検定試験に積極的に取り組むことができた。今後は、その成果を多様な進路実現につなげる必要がある。</p>	<p>①高大接続改革の動向を注視し、多様な受験方法に対応できるように、学習が深まるPDCAサイクルを確立させ、ポートフォリオへの学習履歴の蓄積や課題研究の取組を充実させる。</p> <p>②総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、探究活動を充実させ、その成果をAO入試や公募制推進試験に活用する。</p> <p>②引き続き各種大会やコンクール、資格検定試験に積極的に取り組み、多様な進路実現につなげる。</p>
4	<p style="text-align: center;"><b>地域等との 協働</b></p>	<p>①地域・同窓会・保護者との協働・連携を通じて多様な教育活動を展開するとともに、適切な情報発信を図り中学生・地域のニーズに応える開かれた信頼される学校づくりを進める。</p>	<p>①地域・同窓会・保護者との協働・連携の充実に取り組む。</p> <p>①学校説明会、オープンスクール、学校ホームページなどのさらなる充実を図る。</p>	<p>①「卒業生による特別講演会」を企画・実施し、今後の在り方を整理する。</p> <p>①地域貢献活動の取組のさらなる充実を図る。</p> <p>①県立高校改革に伴う本校の取組や進路実績等を中学生・保護者に積極的に広報する。</p>	<p>①「卒業生による特別講演会」を企画・実施し、今後の課題を整理できたか。</p> <p>①地域貢献活動の取組の充実を通じて目的を理解させ、生徒の成長が見て取れたか。</p> <p>①平成29年度入学者選抜における志願者が確保できたか。</p>	<p>①「OB・OGによる職業講演会」を企画・実施し、今後の在り方を整理した。</p> <p>①地域貢献活動の実施日が荒天となり充実を図れなかった。</p> <p>①本校の取組や進路実績等を中学生・保護者に積極的に広報し、本校志願者が増加した。</p>	<p>①同窓会との連携充実と保護者の人的資源の活用促進により、より効果的な講演会となるように改善を図る。</p> <p>①地域貢献活動の実施単位を学年全体だけでなくクラスや部活動といった単位で取り組めるように改善を図る。</p> <p>①アンケート等を活用して、中学生・地域のニーズにこたえる説明会に改善する。</p>	<p>①地域、同窓会、保護者との連携場面は、さらに充実させることができる。神奈川県らしいコミュニティ・スクールの実現に向けて、学校運営協議会制度の準備、計画を進める必要がある。</p> <p>②学校のホームページを充実させ、地域が求める情報を積極的に発信する必要がある。</p>	<p>①神奈川県らしいコミュニティ・スクールの実現に向けて、計画的に準備を進める必要がある。</p> <p>②学校のホームページやSNS、学習支援サービスのメッセージ機能等を活用して、地域や保護者が求める情報を積極的に発信する必要がある。</p>	<p>③神奈川県らしいコミュニティ・スクールの実現に向けた準備を計画的に取り組み、キャリア教育等に生かす。</p> <p>①平成31年度に学校評議員制度が学校運営協議会制度に変わることを踏まえ、部活動や学校行事等を通して、地域に開かれた取組を充実させる。また、学校の取組をホームページや「まちcomi」等を活用して地域、保護者に発信していく。</p>
5	<p style="text-align: center;"><b>学校管理 学校運営</b></p>	<p>①高校教育に求められる教育活動を生徒の状況に応じて推進し、教職員ひとり一人がチャレンジとコンプライアンスを旨とし、業務改善および事故・不祥事ゼロを実現するために、明るく風通しのよい職場環境を醸成し、地域・保護者・生徒に信頼される学校を目指す。</p>	<p>①県立高校改革基本計画および実施計画に基づき教育活動の改革推進を図るとともに、業務改善・不祥事防止に取り組む。</p> <p>①耐震補強・老朽化対策工事による教育環境への影響を最小限にとどめる。</p>	<p>①本校ミッション達成に向け、生徒と向き合う時間を確保するため積極的に業務改善に取り組み、課題を重点化して解決に取り組む。</p> <p>①円滑な情報共有に努めるとともに、事故不祥事ゼロを実現する。</p> <p>①耐震補強・老朽化対策工事に向けて、教育環境の維持を図る。</p>	<p>①業務の精選・課題の重点化により、学校目標の達成が進んだか。</p> <p>①円滑な情報共有が進み、事故不祥事ゼロが達成できたか。</p> <p>①教育環境を維持できたか。</p>	<p>①会議の見直しやグループウェアの活用等により、業務改善に取り組み、生徒と向き合う時間の確保につなげた。</p> <p>①円滑な情報共有に努めるとともに、事故不祥事ゼロに努めた。</p> <p>①耐震補強・老朽化対策工事に向けて、教育環境の維持を図った。</p>	<p>①校務の情報化や会議のあり方の見直しをさらに進め、生徒と向き合う時間の確保に努める。</p> <p>①朝の打合せや職員会議等の機会に、継続的に事故不祥事ゼロに向けた注意喚起を行う。</p> <p>②教育施設課や業者と連携を充実させ耐震・老朽化対策工事による教育環境の影響を最小限にとどめる。</p>	<p>①さらに業務の精選、課題の重点化に取り組む、教員の働き方の改善に努める必要がある。</p> <p>②校務の情報化を引き続き推進し、会議、打合せの円滑化、事故不祥事防止に向けた注意喚起を積極的に行う必要がある。</p>	<p>①生徒と向き合う時間を確保するため、引き続き積極的に業務改善に取り組み、課題を重点化して解決に取り組む必要がある。</p> <p>②朝の打合せや職員会議等の機会に、引き続き事故不祥事ゼロに向けた注意喚起を行う必要がある。</p> <p>③教育施設課や業者と連携を充実させ耐震・老朽化対策工事による教育環境の影響を最小限にする必要がある。</p>	<p>①業務を精選し、解決すべき課題の優先順位を決めて重点化してその解決に取り組む。</p> <p>②校内グループウェアの利用を促進し、朝の打合せや会議時間の短縮を図る。</p> <p>③ホワイトボードを効果的に活用して、業務の見える化を進め、明るく風通しのよい職場環境を醸成し、事故不祥事防止に努める。</p>